



2020
FUKUYAMA

今月のテーマ

包括外部監査 【軽視都市 6年連続】福山市

日本経済新聞社 2018年9月24日の関連記事掲載より調査

弁護士や公認会計士らが毎年特定のテーマを定めて自治体や関連団体の実務執行状況を調査し、公費の無駄や不備などの問題を示、自治体が外部監査報告を受けて2年間の対応で評価する。

1：速さ 2：措置対応度 3：説明責任について A～E 評価で福山市は6年連続 D 判定を受け、日経新聞全国記事で記載される。

注目!

【平成 27 年度福山市包括外部監査結果報告書】より抜粋

- ① ふくやま芸術文化振興財団 経常収益 7 億 6 千 9 百万円のうち、福山市からの受取補助金等は 6 億 6 千 7 百万円であり、施設管理に係る指定管理料や受取補助金等が、経常収益のおよそ 9 割を占める。
- ② 赤字鑑賞事業が多く、運営視点ではなく経営視点の欠如。自主事業を積極的に行い、福山市への財政依存度を下げるような形で、法人運営を行うことも必要。
- ③ 杜撰な寄付金の在り方・備品管理・固定資産・入札業務が課題と記されているが現場と管理運営者を同一に考えてはならない。



村上栄二の
意見

貴重な税金を活用して実施している「法定監査」の指摘を受け、真摯に取り組むのがまっとうな組織体で在り、市民の厚い信頼が得られる市役所への変革となる。

今月のテーマについて、HP で詳しく説明させていただきます。どうぞご覧ください。

福山の未来を
ちょっと
考える時間。



村上栄二 official site

<http://www.eijimurakami.com>

詳細は Web で…

村上栄二 official site

検索



日本一の”住都市ふくやま”へ

激動の時代変化の最中、私たちの生活もまた、大きく変わろうとしています。「少子高齢化社会」「労働人口の減少」「AI 技術の進展」「教育」「福祉」等など、こうした課題は決して対岸の火事ではなくなっています。私たちが暮らす福山市が、市民や企業などそれぞれにとって、もっと選択肢のある豊かな街になるには？そのために必要なことは何か？ひとつの考え方として、私の意見を披露させていただきます。

皆さんにとって考えるきっかけとなれば幸いです。

有限会社 DC 開発研究所 代表取締役 村上 栄二

「包括外部監査【軽視都市 6年連続】福山市」

全国市民オンブズマン連絡会議は、2018年8月28日に「2018年版包括外部監査の通信簿」を発表した。包括外部監査とは、地方自治法で定められた外部監査制度の一環として実施される「法定監査」で、弁護士や公認会計士らが毎年特定のテーマを定めて自治体や関連団体の実務執行状況を調査し、公費の無駄や不備などの問題を示すものである。

連絡会議により公表された通信簿は、平成12年より毎年実施されており、自治体が外部監査報告を受けた後の2年間での対応状況で評価している。具体的には、「1：速さ」「2：措置対応度」「3：説明責任」の3項目についてA(最良)～E(最悪)で評価している。

その結果、DやE判定を受けた問題点放置自治体の顔ぶれは固定しており、福山市は6年連続D判定を受けている。内訳として、速さB、措置対応度：D、説明責任：Dである。外部監査費用は500～3000万円近くかける「法定監査」であるため、活かしきる意識を持つべきだ。

過去10回中8回でA判定を受けている愛知県豊田市の見解は、

- ：常に無駄をなくす見直しを職員に求め包括外部監査はいいきっかけになっている。
- ：他の課が受けた指摘や意見もちゃんと見て活かす。
- ：外部監査を受け、債権管理条例を全国に先駆けて制定したり、施設管理マニュアルも細かく規定した。

とのことだ。

豊田市のように法定の外部監査制度を活用している自治体と軽視を続ける福山市の実態には大きな差が生まれつつある。言える事は「外郭団体や市役所組織運営について自分たちの都合で変化できない組織⇔市職員労働組合の支持を得て選挙に勝つ候補者」という構造であっては、なかなか組織体制を変える事は難しい、ということである。

ここで、福山市の平成27年度福山市包括外部監査結果報告書（テーマ：出資団体の財務に関する事務の執行について）での指摘事項を抜粋すると、

- 1：ふくやま芸術文化振興財団の平成27年3月期の正味財産増減計算書によると、經常収益7億6千9百万円のうち、福山市からの受取補助金等は6億6千7百万円であり、施設管理に係る指定管理料や受取補助金等が經常収益のおよそ9割を占める。
- 2：そのため、自主事業を積極的に行い、福山市への財政依存度を下げるような形で、法人運営を行うことが必要である。
- 3：ずさんな寄付金のあり方・備品管理・固定資産・入札業務が課題である。
- 4：福山市からの出資を受けているものの、組織的には福山市から独立した公益財団法人であり、福山市からの補助金に依存する事なく可能な限り独立採算制にて運営されることが望ましい。特にリーデンローズでは赤字の鑑賞事業（コンサート等）が多く、運営者が経営者視点で実施していない状況が散見される。

とのことであった。

貴重な税金を活用して実施している「法定監査」の指摘を受け、真摯に改善に取り組むのが、まっとうな組織体であり、市民から厚い信頼が得られる市役所への変革となる。